

1. 発行者の略称(出版社名)
1 7 教出 2 7 教芸
2. 調査研究の経過
7 月 1 日 第 1 回竹田地区教科用図書選定委員会 7 月 2 4 日 第 2 回竹田地区教科用図書選定委員会
3. 調査研究の観点
<b>【全教科(種目)共通観点】</b> 1. 単元・題材の構成及び内容の取扱い (1) 学習指導要領に示す目標を達成するために必要な教材を、どのように構成して、単元や題材が設定されているか。 (2) 単元・題材設定に関しては、学年の段階や生徒の発達の段階・経験に照らして、どのように示されているか。 (3) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、これらを活用して課題を解決する中で思考力、判断力、表現力等をはぐくむ学習が促されるよう、どのように示されているか。 2. 文章表現、資料等 (1) 文字、行間、鮮明度、文章表現等は、どのように示されているか。 (2) 資料・手引き等が有効に使われ、生徒の自主的、自発的な学習が促されるよう、どのように示されているか。 3. 挿絵・図表及び紙質・造本 (1) 挿絵・図表・統計等が、どのように示されているか。 (2) 紙質・造本については、どのように示されているか。 <b>【各教科(種目)独自観点】</b> ○学習指導要領に示された目標に基づいた各教科(種目)独自の観点を設定する。 ※各教科(種目)独自観点は、次回選定委員会までに設定し、調査研究報告時に説明する。 (1) 表現の能力(歌唱・創作・器楽) ①歌唱表現を創意工夫し、思いや意図をもって歌うことについて、どのように示されているか。 ②創作表現を創意工夫し、思いや意図をもって音楽をつくることについて、どのように示されているか。 ③器楽表現を創意工夫し、思いや意図をもって演奏することについて、どのように示されているか。 ④楽器の特徴や奏法について、どのように示されているか。 (2) 鑑賞の能力 ①曲想を感じ取りながら、音楽のよさや美しさを味わって聴くことについて、どのように示されているか。
4. 選定委員会(専門研究員の調査・研究)についての意見、感想ほか

教科用図書 種目( 音楽〈一般〉 ) 教科書会社 No( 17 )

発行者の番号・略称		番号			略称		教出																																														
使用学年		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年																																														
教科書番号		702	803	804	—	—	—																																														
項 目		所 見																																																			
教 科 共 通	1. 単元題材の 選定及び 組織・構成	<p>・「音楽1」の「Sing! Sing!」では、姿勢・息のコントロール・母音、子音、鼻濁音の発声・変声期に心がけること等、歌唱に必要なポイントを3つに分けて示している。</p> <p>・聴き取ったこと、思いや意図、楽曲の魅力等を記入する活動が示されている教材が歌唱・創作・鑑賞の領域合計で26配置されており、特に鑑賞について多く示されている。</p> <p>・学習のめあてが、各題材及び巻末の曲集「歌のアルバム」に記載された構成となっている。</p>																																																			
	2. 文章表現、 資料	<p>・二次元コードからつながるコンテンツ数は、次のとおりであり、範唱や演奏、ワークシートを閲覧できる。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2・3上</th> <th>2・3下</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>21</td> <td>48</td> <td>27</td> <td>96</td> </tr> </tbody> </table> <p>・資料は「音楽1」では楽典、民謡や弦楽合奏に用いられる楽器、リコーダーの運指表、「音楽2・3上」ではオーケストラの楽器、音楽著作権、「音楽2・3下」ではポピュラー音楽図鑑、肖像で見る音楽年表などが巻末に掲載されている。</p>								1	2・3上	2・3下	合計		21	48	27	96																																			
		1	2・3上	2・3下	合計																																																
		21	48	27	96																																																
3. 挿絵・図表	<p>鑑賞領域における、我が国や郷土の伝統音楽(日本)及びアジア地域・諸外国の音楽の写真の掲載数は、次のとおりである。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2・3上</th> <th>2・3下</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>写真掲載数</td> <td>23</td> <td>46</td> <td>35</td> <td>104</td> </tr> </tbody> </table>								1	2・3上	2・3下	合計	写真掲載数	23	46	35	104																																				
	1	2・3上	2・3下	合計																																																	
写真掲載数	23	46	35	104																																																	
4. 紙質・造本	表紙は、抗菌加工されており、環境にやさしい再生紙と植物油インキが使用されている。																																																				
教 科 独 自	5.	<p>・歌唱表現の工夫に対してアドバイス・ヒント(各題材に、「曲想と歌詞の内容との関わりを生かして表現を工夫しよう」など)が示されている教材数は、次のとおりである。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2・3上</th> <th>2・3下</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>斉 唱</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>二部合唱</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>三部合唱</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>四部合唱</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>・創作表現の工夫に対してアドバイス・ヒントが示されている教材数は、次のとおりである。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>学 年</th> <th>1</th> <th>2・3上</th> <th>2・3下</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教材数</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>・音楽のよさや美しさを味わって聴くことへのアドバイス・ヒントが示されている教材数は、次のとおりである。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>学 年</th> <th>1</th> <th>2・3上</th> <th>2・3下</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教材数</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>17</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table>								1	2・3上	2・3下	合計	斉 唱	4	4	4	12	二部合唱	3	0	1	4	三部合唱	0	1	0	1	四部合唱	0	0	1	1	学 年	1	2・3上	2・3下	合計	教材数	3	2	2	7	学 年	1	2・3上	2・3下	合計	教材数	15	20	17	52
		1	2・3上	2・3下	合計																																																
	斉 唱	4	4	4	12																																																
二部合唱	3	0	1	4																																																	
三部合唱	0	1	0	1																																																	
四部合唱	0	0	1	1																																																	
学 年	1	2・3上	2・3下	合計																																																	
教材数	3	2	2	7																																																	
学 年	1	2・3上	2・3下	合計																																																	
教材数	15	20	17	52																																																	
6. その他(地域の特殊性についての配慮)	郷土の作曲家瀧廉太郎の「花」「荒城の月」が「音楽2・3下」に掲載されており、巻頭にも「花」の自筆譜が示されている。																																																				
7. まとめ (特色及び総合所見)	音楽科の目標「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成」を、着実に達成できるような教材や学習活動が充実している。また、学習指導要領の各学年の目標や内容に対応した題材が、系統性と発展性をもって組織され、その題材を軸に教材が配置されている。																																																				

教科用図書 種目( 音楽〈一般〉 ) 教科書会社 No( 27 )

発行者の番号・略称		番号	27			略称	教芸																																													
使用学年		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年																																													
教科書番号		702	803	804	—	—	—																																													
項 目		所 見																																																		
教科 共通	1. 単元題材の 選定及び 組織・構成	<p>・「音楽1」の「My Voice」では、姿勢と呼吸、響きのある歌声、声のでる仕組み、変声期に心がけること等、歌唱に必要なポイントがひとつにまとめて示している。</p> <p>・聴き取ったこと、思いや意図、楽曲の魅力を記入する活動が示されている教材が歌唱・創作・鑑賞の領域合計で24配置されている。特に鑑賞について多く示されている。</p> <p>・学習のめあてが、各題材に記載された構成となっている。</p>																																																		
	2. 文章表現、 資料	<p>・二次元コードからつながるコンテンツ数は、次のとおりであり、範唱、ワークシート、作曲者の紹介等を閲覧できる。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2・3上</td> <td>2・3下</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td></td> <td>105</td> <td>89</td> <td>54</td> <td>248</td> </tr> </table> <p>・資料は、「音楽1」「音楽2・3年上」では、音楽の約束(楽典)、音楽を形づくっている要素を、「音楽2・3年下」では、音楽の約束(楽典)、音楽を形づくっている要素、耳でたどる音楽史が巻末に掲載されている。</p>							1	2・3上	2・3下	合計		105	89	54	248																																			
		1	2・3上	2・3下	合計																																															
		105	89	54	248																																															
3. 挿絵・図表	<p>・鑑賞領域における、我が国や郷土の伝統音楽(日本)及びアジア地域・諸外国の音楽の写真の掲載数は、次のとおりである。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2・3上</td> <td>2・3下</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>写真掲載数</td> <td>42</td> <td>65</td> <td>117</td> <td>224</td> </tr> </table>							1	2・3上	2・3下	合計	写真掲載数	42	65	117	224																																				
	1	2・3上	2・3下	合計																																																
写真掲載数	42	65	117	224																																																
4. 紙質・造本	<p>・再生紙や再生可能な植物油インキを使用し、製本は安全性に優れ、丈夫で長持ちする様式を採用している。</p>																																																			
教科 独自	5. ①歌唱表現を創意工夫し、思いや意図を持って歌うことについて、どのように示されているか。 ②創作表現を創意工夫し、思いや意図を持って音楽を創ることについて、どのように示されているか。 ③曲想を感じ取りながら、音楽のよさや美しさを味わって聴くことについて、どのように示されているか。	<p>・歌唱表現の工夫に対してアドバイス・ヒント(各題材及び巻末の特集「心通う合唱」に「音色や強弱、速度などを工夫しましょう」などが示されている教材数は、次のとおりである。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2・3上</td> <td>2・3下</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>斉唱</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>二部合唱</td> <td>8</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>三部合唱</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>四部合唱</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </table> <p>・創作表現の工夫に対してアドバイス・ヒントが示されている教材数は、次のとおりである。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2・3上</td> <td>2・3下</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>教材数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>8</td> </tr> </table> <p>・音楽のよさや美しさを味わって聴くことへのアドバイス・ヒントが示されている教材数は次のとおりである。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>1</td> <td>2・3上</td> <td>2・3下</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>教材数</td> <td>23</td> <td>24</td> <td>19</td> <td>66</td> </tr> </table>							1	2・3上	2・3下	合計	斉唱	5	6	6	17	二部合唱	8	2	1	11	三部合唱	5	9	6	20	四部合唱	0	0	1	1		1	2・3上	2・3下	合計	教材数	3	3	2	8		1	2・3上	2・3下	合計	教材数	23	24	19	66
	1	2・3上	2・3下	合計																																																
斉唱	5	6	6	17																																																
二部合唱	8	2	1	11																																																
三部合唱	5	9	6	20																																																
四部合唱	0	0	1	1																																																
	1	2・3上	2・3下	合計																																																
教材数	3	3	2	8																																																
	1	2・3上	2・3下	合計																																																
教材数	23	24	19	66																																																
6. その他(地域の特殊性についての配慮)	<p>・郷土の作曲家である滝廉太郎の楽曲「荒城の月」(2・3上)「花」(2・3下)が取り扱われている。「荒城の月」ではデジタルコンテンツで「竹田市の岡城跡について」の詳しい説明や資料を閲覧できる。</p>																																																			
7. まとめ (特色及び総合所見)	<p>意欲を持って主体的に学習を進められるよう、各教材において、目標とする学習内容やその方法、考えたポイントなど、学習の必要な情報(「学びのコンパス」)が明確に示されており、適切に工夫されている。</p> <p>明確な学習の観点のもと、幅広く変化に富んだ学習活動を行えるよう多様な教材が用意されており、意欲的に取り組めるよう適切に配慮されている。</p>																																																			

教科用図書 種目( 音楽〈器楽合奏〉 ) 教科書会社 No( 17 )

発行者の番号・略称		番号	17			略称	教出																																																														
使用学年		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年																																																														
教科書番号		702																																																																			
項 目		所 見																																																																			
教 科 共 通	1. 単元題材の選定及び組織・構成	<p>・掲載されている楽器の種類・名称は次のとおりである。                  ①リコーダー ②篠笛 ③尺八 ④ギター ⑤箏(こと) ⑥三味線 ⑦太鼓 ⑧小太鼓                  ⑨大太鼓 ⑩ボンゴ ⑪コンガ ⑫カホン</p> <p>・「表現の仕方を調べてみよう」では、3種類の吹く楽器の音の出し方から、楽器の特徴を調べたり、共通点や相違点を考えたりする活動などが示されている。</p> <p>・「曲想と音楽との関わりを理解したり、奏法を身につけたりしながら、曲にふさわしい表現を工夫しよう」など、その楽器で学習する知識及び技能や表現の工夫などを、上部に付箋で示されている。</p>																																																																			
	2. 文章表現、資料	<p>・二次元コードからつながるコンテンツは次のとおりであり、範奏や楽器の奏法を閲覧できる。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>コンテンツ数</td> <td>37</td> </tr> </table> <p>・資料は、リコーダーの運指表、ギター・キーボードのコード表、さまざまな打楽器、音楽用語や記号が巻末に示されている。</p>									コンテンツ数	37																																																									
	コンテンツ数	37																																																																			
	3. 挿絵・図表	<p>・楽器別の写真の掲載枚数は、次のとおりである。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>リコーダー</th> <th>ギター</th> <th>箏</th> <th>三味線</th> <th>太鼓</th> <th>篠笛</th> <th>尺八</th> <th>打楽器</th> <th>合奏</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table>									リコーダー	ギター	箏	三味線	太鼓	篠笛	尺八	打楽器	合奏	合計	2	1	1	3	3	6	4	5	2	27																																							
リコーダー	ギター	箏	三味線	太鼓	篠笛	尺八	打楽器	合奏	合計																																																												
2	1	1	3	3	6	4	5	2	27																																																												
4. 紙質・造本	<p>・表紙は抗菌加工されており、環境にやさしい再生紙と植物油インキが使用されている。</p>																																																																				
教 科 独 自	5. ①器楽表現を創意工夫し、思いや意図をもって演奏することについて、どのように示されているか	<p>・器楽表現の工夫に対してアドバイス・ヒント(コードと旋律の響きを感じ取って演奏しようなど)が示されている教材数は、次のとおりである。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>リコーダー</th> <th>ギター</th> <th>箏</th> <th>三味線</th> <th>太鼓</th> <th>篠笛</th> <th>尺八</th> <th>打楽器</th> <th>合奏</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>21</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table>									リコーダー	ギター	箏	三味線	太鼓	篠笛	尺八	打楽器	合奏	合計	18	5	2	1	1	5	1	1	21	55																																							
	リコーダー	ギター	箏	三味線	太鼓	篠笛	尺八	打楽器	合奏	合計																																																											
	18	5	2	1	1	5	1	1	21	55																																																											
②楽器の特徴や奏法について、どのように示されているか。	<p>・楽器の名称や奏法などを説明している写真・イラストの掲載枚数は、次のとおりである。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>姿勢</th> <th>名称</th> <th>運指</th> <th>奏法</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リコーダー</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>35</td> <td>4</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>ギター</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>37</td> <td>6</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>箏</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>13</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>三味線</td> <td>19</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>太鼓</td> <td>23</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>篠笛</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>尺八</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>打楽器</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>合奏</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>13</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table>										姿勢	名称	運指	奏法	合計	リコーダー	2	1	35	4	42	ギター	2	2	37	6	47	箏	1	1	2	13	17	三味線	19	1	4	7	31	太鼓	23	4	1	6	34	篠笛	3	1	10	4	18	尺八	1	1	1	4	7	打楽器	3	5	0	2	10	合奏	0	2	0	13	15
	姿勢	名称	運指	奏法	合計																																																																
リコーダー	2	1	35	4	42																																																																
ギター	2	2	37	6	47																																																																
箏	1	1	2	13	17																																																																
三味線	19	1	4	7	31																																																																
太鼓	23	4	1	6	34																																																																
篠笛	3	1	10	4	18																																																																
尺八	1	1	1	4	7																																																																
打楽器	3	5	0	2	10																																																																
合奏	0	2	0	13	15																																																																
6. その他	特になし																																																																				
7. まとめ (特色及び総合所見)	<p>学習指導要領に示された指導事項に適した教材が集められ、曲想と音楽の構造などの関わりについて理解しやすい教材や、思いや意図を持って表現するために必要な技能が無理なく身に付く教材が適切に配置されている。また文章は適切な分量で、生徒にわかりやすく丁寧に示され、生徒の主体的な学習を引き出すように配慮されている。</p>																																																																				

教科用図書 種目( 音楽〈器楽合奏〉 ) 教科書会社 No( 27 )

発行者の番号・略称		番号	27			略称	教芸																																																																																			
使用学年		1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年																																																																																			
教科書番号		702			—	—	—																																																																																			
項 目		所 見																																																																																								
教科 共通	1. 単元題材の選定 及び組織・構成	<p>・掲載されている楽器の種類・名称は次のとおりである。</p> <p>①リコーダー ②ギター ③箏 ④三味線 ⑤太鼓 ⑥篠笛 ⑦尺八 ⑧クラベス ⑨シェーカー ⑩カウベル ⑪アゴゴ ⑫ボンゴ ⑬コンガ ⑭カスタネット ⑮タンブリン ⑯鈴 ⑰シンバル ⑱小太鼓 ⑲大太鼓 ⑳カホン ㉑ジェンベ ㉒ドラムセット</p> <p>・「学びのコンパス」では、音楽を聴いたり演奏したりして、旋律やリズムなどの特徴を確かめ、パートの役割を考える活動などが示されている。</p> <p>・「曲想を感じ取って、表情豊かに演奏しよう」など、学習のめあてを左端に記載するとともに、その下に音楽を形づくっている要素が示されている。</p>																																																																																								
	2. 文章表現、資料	<p>・二次元コードからつながるコンテンツ数は、次のとおりであり、範奏や伴奏、楽器の奏法、ワークシート等を閲覧できる。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>コンテンツ数</td> <td>127</td> </tr> </table> <p>・資料は、リコーダーの運指表、ギターやキーボードのコード表、音楽の用語や記号、楽器を7つに分類した図鑑などが巻末に示されている。</p>									コンテンツ数	127																																																																														
	コンテンツ数	127																																																																																								
	3. 挿絵・図表	<p>・楽器の写真の掲載枚数は、次のとおりである。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>リコーダー</th> <th>ギター</th> <th>箏</th> <th>三味線</th> <th>太鼓</th> <th>篠笛</th> <th>尺八</th> <th>打楽器</th> <th>合奏</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>15</td> <td>3</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table>									リコーダー	ギター	箏	三味線	太鼓	篠笛	尺八	打楽器	合奏	合計	8	3	2	5	3	5	1	15	3	45																																																												
リコーダー	ギター	箏	三味線	太鼓	篠笛	尺八	打楽器	合奏	合計																																																																																	
8	3	2	5	3	5	1	15	3	45																																																																																	
4. 紙質・造本	<p>・再生紙や再生可能な植物油インキを使用し、製本は安全性に優れ、丈夫で長持ちする様式を採用している。</p>																																																																																									
教科 独自	5.	<p>・器楽表現の工夫に対してアドバイス・ヒント（「リズムパターンを参考にして、ストローク奏法で演奏しましょう」など）が示されている教材数は、次のとおりである。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>リコーダー</th> <th>ギター</th> <th>箏</th> <th>三味線</th> <th>太鼓</th> <th>篠笛</th> <th>尺八</th> <th>打楽器</th> <th>合奏</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>17</td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table> <p>・楽器の名称や奏法などを説明している写真・イラストの掲載枚数は、次のとおりである。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>姿勢</th> <th>名称</th> <th>運指</th> <th>奏法</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リコーダー</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>21</td> <td>5</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>ギター</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>43</td> <td>6</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>箏</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>11</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>三味線</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>太鼓</td> <td>15</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>篠笛</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>2</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>尺八</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>打楽器</td> <td>2</td> <td>15</td> <td>0</td> <td>22</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>合奏</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>									リコーダー	ギター	箏	三味線	太鼓	篠笛	尺八	打楽器	合奏	合計	5	4	6	2	1	1	1	0	17	37		姿勢	名称	運指	奏法	合計	リコーダー	4	2	21	5	32	ギター	4	7	43	6	60	箏	4	1	1	11	17	三味線	6	5	2	6	19	太鼓	15	3	0	1	19	篠笛	2	6	7	2	17	尺八	3	1	6	2	12	打楽器	2	15	0	22	39	合奏	1	5	1	4	11
	リコーダー	ギター	箏	三味線	太鼓	篠笛	尺八	打楽器	合奏	合計																																																																																
	5	4	6	2	1	1	1	0	17	37																																																																																
	姿勢	名称	運指	奏法	合計																																																																																					
リコーダー	4	2	21	5	32																																																																																					
ギター	4	7	43	6	60																																																																																					
箏	4	1	1	11	17																																																																																					
三味線	6	5	2	6	19																																																																																					
太鼓	15	3	0	1	19																																																																																					
篠笛	2	6	7	2	17																																																																																					
尺八	3	1	6	2	12																																																																																					
打楽器	2	15	0	22	39																																																																																					
合奏	1	5	1	4	11																																																																																					
6. その他	<p>特になし</p>																																																																																									
7. まとめ (特色及び総合所見)	<p>全体を通して、過不足ない分量の教材が取り扱われ、各教材の学習内容が明確に示されるとともに、それに即した活動の具体的な手立てやヒントがわかりやすく適切に取りあげられるなど、目的に応じた扱い方の工夫がなされている。</p>																																																																																									